

災害拠点病院管理運営委員会

○災害拠点病院管理運営委員会

災害拠点病院管理運営委員会について当院は災害対策基本法に基づき、平成 15 年より大分県知事から災害拠点病院の指定を受けています。大規模災害時には大分県北部地域における医療の要として機能するとともに、災害派遣医療チーム(DMAT)を全国へ派遣する重要な役割を担っています。当委員会は、業務継続計画(BCP)に則ったマニュアルの改訂、実動訓練の企画・運営、そして訓練後の評価に基づくPDCA サイクルの構築を主な業務としています。

○令和 7 年度中津市民病院災害実動訓練

災害実動訓練の実施について令和 7 年 11 月 8 日(土)午前 9 時、周防灘を震源とする巨大地震が発生し、中津市で震度 6 弱以上を観測した想定のもと「令和 7 年度 中津市民病院災害実動訓練」を実施しました。参加者は当院職員約 40 名にのぼりました。

今回の訓練では、前年度の反省を踏まえ「リアル」を課題テーマとしました。従来は訓練進行の都合上、本部の設営等が完了した状態で開始していましたが、今回は「ゼロからの立ち上げ」を敢行。資機材の搬入から診療体制の構築まで、混乱下での初動を検証しました。また、職員を「院内チーム」と「参集職員チーム」に分け、刻々と変わる人員をどう適正配置するか、CSCA(指揮・連携・安全・通信)の確立に重きを置いた訓練を行いました。なお、今回は詳細な動きを検証するため、傷病者役を配さず「紙傷病者」を用いたシミュレーション形式を採用しました。

訓練の結果、受付時の混乱や指揮命令系統の構築の難しさを改めて痛感することとなりました。しかし、運用が軌道に乗ってからは、これまでの訓練経験を活かした迅速な情報収集と方針決定が可能となり、柔軟な軌道修正を行うことができました。実践的な課題が浮き彫りとなった非常に有意義な訓練となりました。

○九州・沖縄ブロック DMAT 実動訓練

中津市民病院災害実動訓練を実施した同日の午後より、大分県が主催県となった「令和 7 年度 九州・沖縄ブロック DMAT 実動訓練」に参画しました。この訓練は、大分県東部地区での甚大な被害による病院避難を想定した広域連携訓練です。当院は、被災地から搬出される傷病者を中継し、福岡県側へと搬送をつなぐ「受入拠点病院」としての役割を担いました。

他県 DMAT 隊員やインストラクターとともに、想定上の傷病者に対する当院の立ち位置や動きについて机上でのシミュレーションと検討をメインに行いました。広域搬送における中継機能の確認を通じ、地域を越えた災害医療ネットワークにおける当院の重要性と具体的な連携手順を再確認する機会となりました。

今回の訓練を通して見えてきた新たな課題に対し、PDCA サイクルに基づいたマニュアルの見直しを継続し、より質の高い訓練運営と災害対策体制の構築に邁進してまいります。ご協力いただいた関係諸機関の皆さまに厚く御礼申し上げます。

